

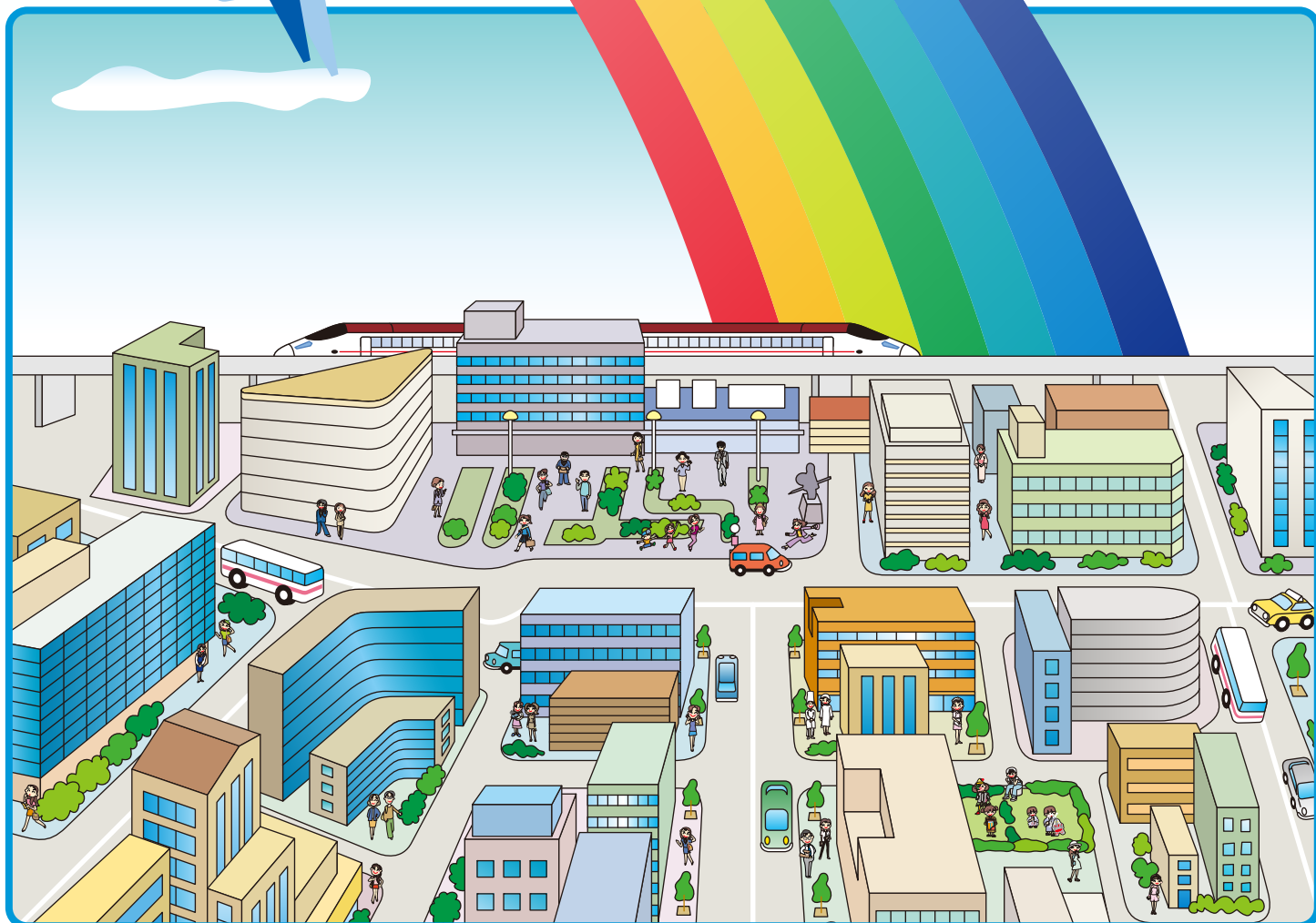
雨水整備

博多駅地区緊急浸水対策事業

レインボープラン

水害に強い
夢のある
まちづくり

博多



福岡市道路下水道局

何がおこったのか!?



博多区を中心に再び浸水

家屋・事業所・地下空間・交通機関などに多大な被害が発生

平成11年6月29日と
平成15年7月19日の浸水被害状況

平成15年7月19日、太宰府市を中心とした御笠川上流域に猛烈な雨が降ったため、19日午前5時頃、御笠川から溢水が始まり、博多区では事業所・家屋など、多大な浸水被害が発生した。

特に博多駅周辺では、地下空間に雨水が流入し、地下鉄が不通になるなど交通機関の混乱を招き、平成11年6月29日に続く、2度目の甚大な被害となった。

区分		H11.6.29	H15.7.19
博多区 の浸水被害	住家		
	床上	275	874
	床下	551	766
	計	826	1,640
	非住家	1	1,152
	合計(戸)	827	2,792
市内全域の浸水被害(戸)		3,478	2,916
博多区の地下施設浸水被害(棟)		81	97

(福岡市市民局防災課資料より)

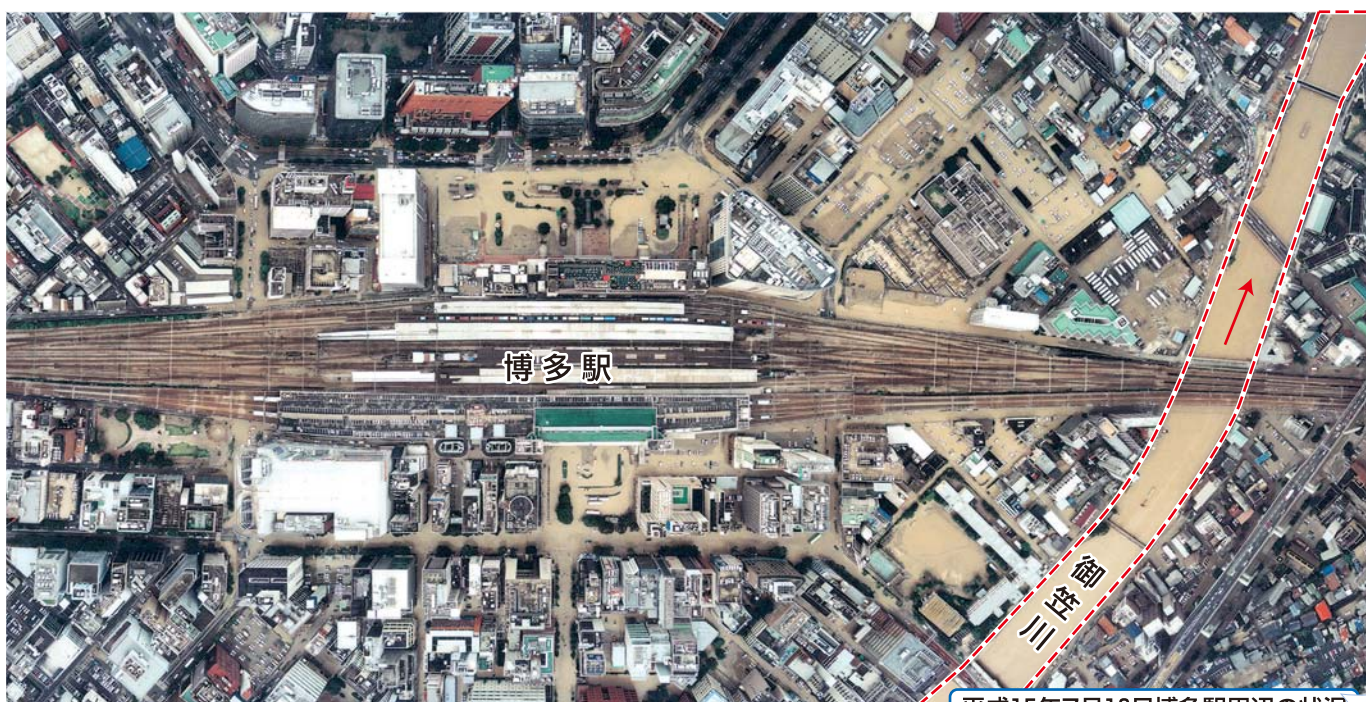
●博多駅周辺の被害状況



平成11年6月29日



平成15年7月19日



平成15年7月19日博多駅周辺の状況

なぜ大きな被害が!?



- 御笠川のをるかに上回る記録的な豪雨
- 都市化による雨水流出量の増加

平成11年6月29日、御笠川上流域や市内各所で記録的な豪雨(1時間最大雨量79.5mm)となり、浸水被害が発生した。

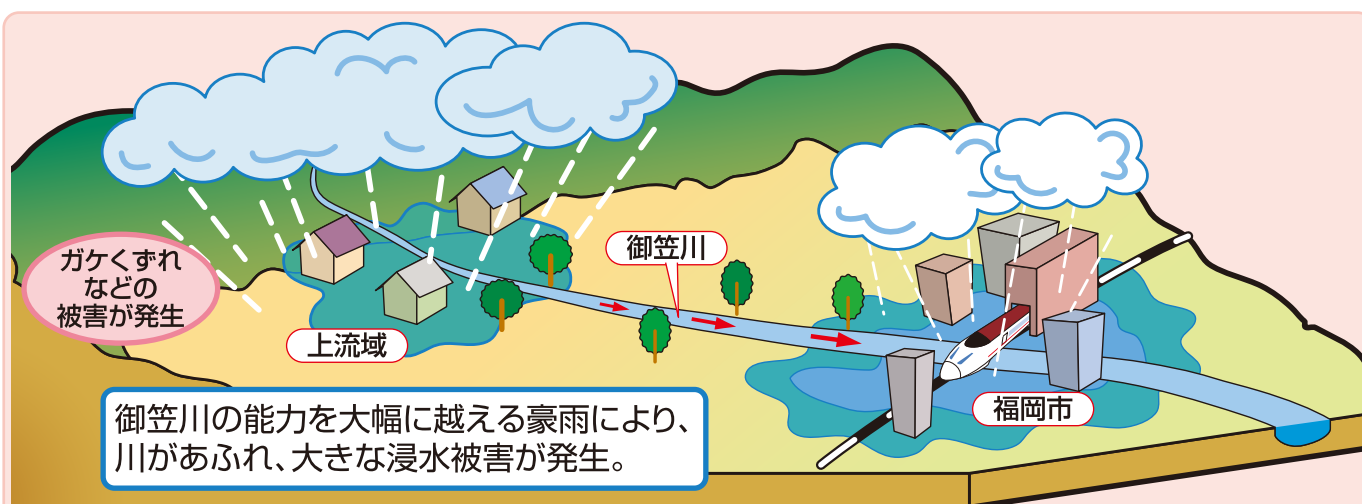
平成15年7月19日、市内各所の雨量は1時間20mm前後であったが、御笠川上流域では、梅雨前線の活発化により猛烈な雨が降った。

特に太宰府市では、1時間最大雨量104.0mmの観測史上最大の記録的な豪雨となり、御笠川のをるかに上回る洪水量となったため、浸水被害が発生した。

また、近年の開発による農地・森林の減少や都市化の進展により、雨水流出量が増加し、浸水被害の大きな要因となっている。

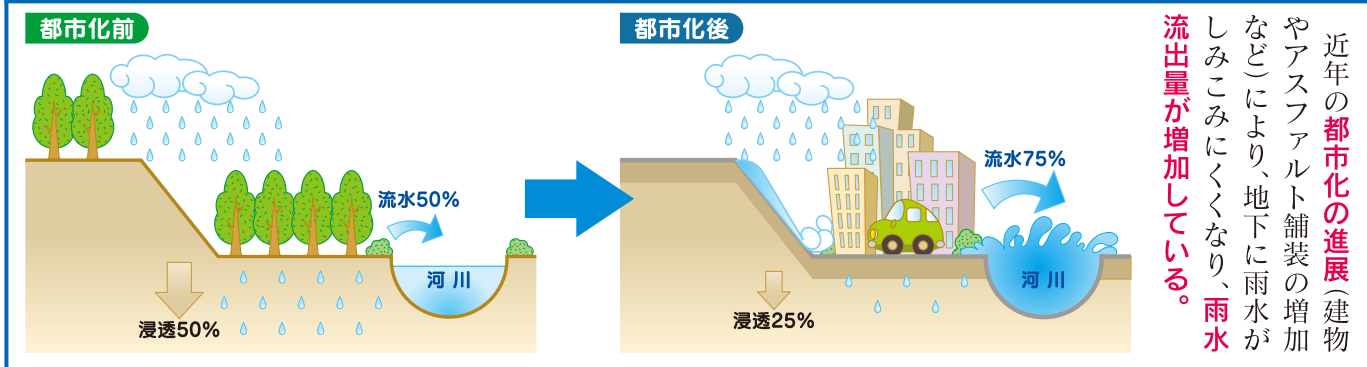
平成11年6月29日の雨量	
太宰府市における 1時間最大雨量	77.0mm
福岡市における 1時間最大雨量	79.5mm
平成15年7月19日の雨量	
太宰府市における 1時間最大雨量	104.0mm
福岡市における 1時間最大雨量	20.0mm

(福岡管区気象台資料より)



河川管理者である福岡県は、御笠川の河川改修を激特事業(河川激甚災害対策特別緊急事業)において、平成15年7月19日の洪水量(890m³/秒)まで整備を進めることにしている。

都市化による雨水流出量の増加



これから、どうするのか?

福岡市では、博多駅周辺を三度浸水させないように対策を進めています。

このような対策を行います。



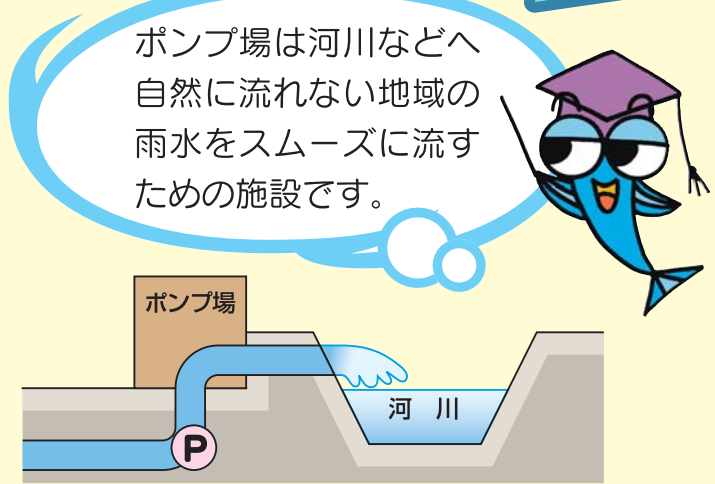
総合的な浸水対策

●雨水整備水準の見直しを行います。
〔時間雨量〕59.1mm → 79.5mm
 雨水整備水準を時間雨量59.1mm(10年確率)から平成11年6月29日の降雨である時間雨量79.5mmまで引き上げて整備を行います。



【参考】大雨・洪水注意報…1時間雨量30mm以上(バケツをひっくり返したように降る雨)
 大雨・洪水警報…1時間雨量50mm以上(滝のように降る雨)

ポンプ場の新設及びポンプ能力の増強



雨水整備計画



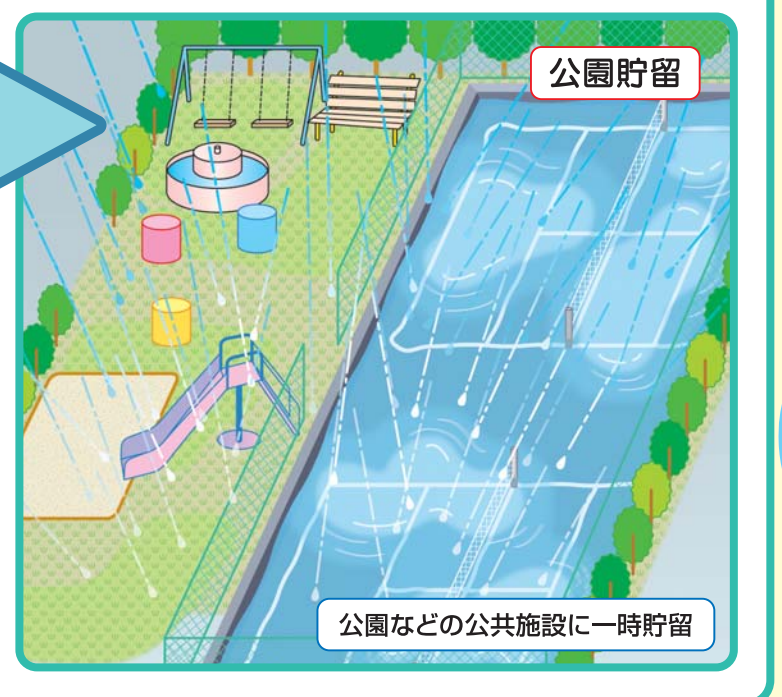
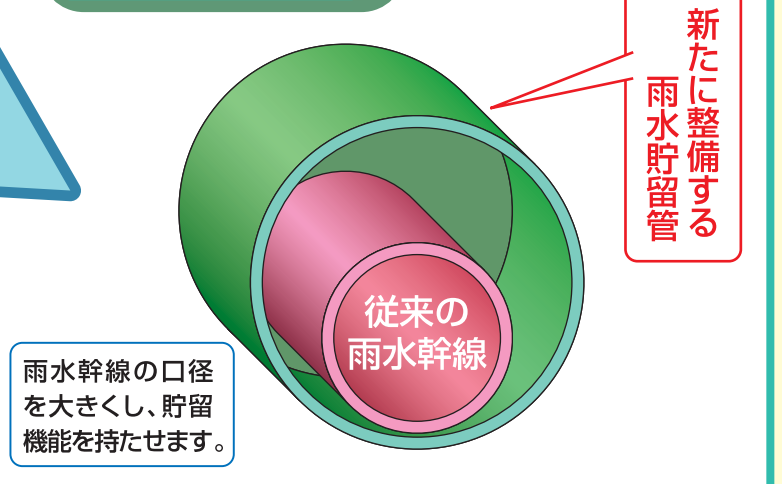
施設整備概要		(山王ポンプ所)	(山王公園雨水調整池)
〔貯留管〕		ポンプ設備等	貯留量
主な幹線の名称(仮称)	比恵9号幹線・比恵12号幹線・比恵13号幹線	約2m ³ /秒・逆流防止ゲート・雨水調整槽	約30,000m ³
管径(mm)・延長(m)	○約3000mm~○5000mm L=約2.0km	〔ポンプ場〕	
〔幹線〕		ポンプ場の名称	形状・能力等
主な幹線の名称(仮称)	比恵8号幹線・比恵10号幹線・比恵11号幹線・住吉2号幹線・住吉3号幹線・住吉5号幹線	博多駅北ポンプ場(新設)	計画約14m ³ /秒
管径(mm)・延長(m)	○約1800mm~○2800mm L=約3.0km	博多駅東ポンプ場(増強)	現状約10m ³ /秒 → 計画約13m ³ /秒
		向島ポンプ場(増強)	現状約13m ³ /秒 → 計画約20m ³ /秒

雨水排水機能の強化

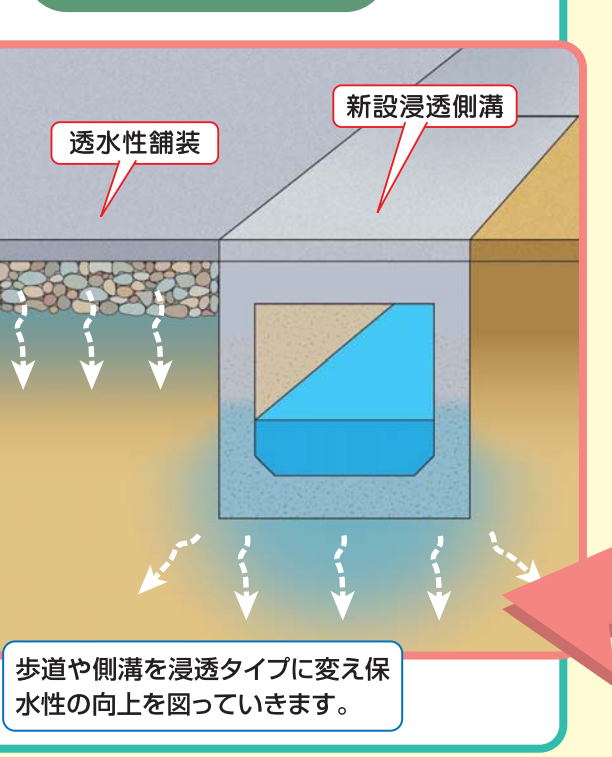
排水計画を見直して、より大きな雨水幹線を建設していきます。



雨水の貯留



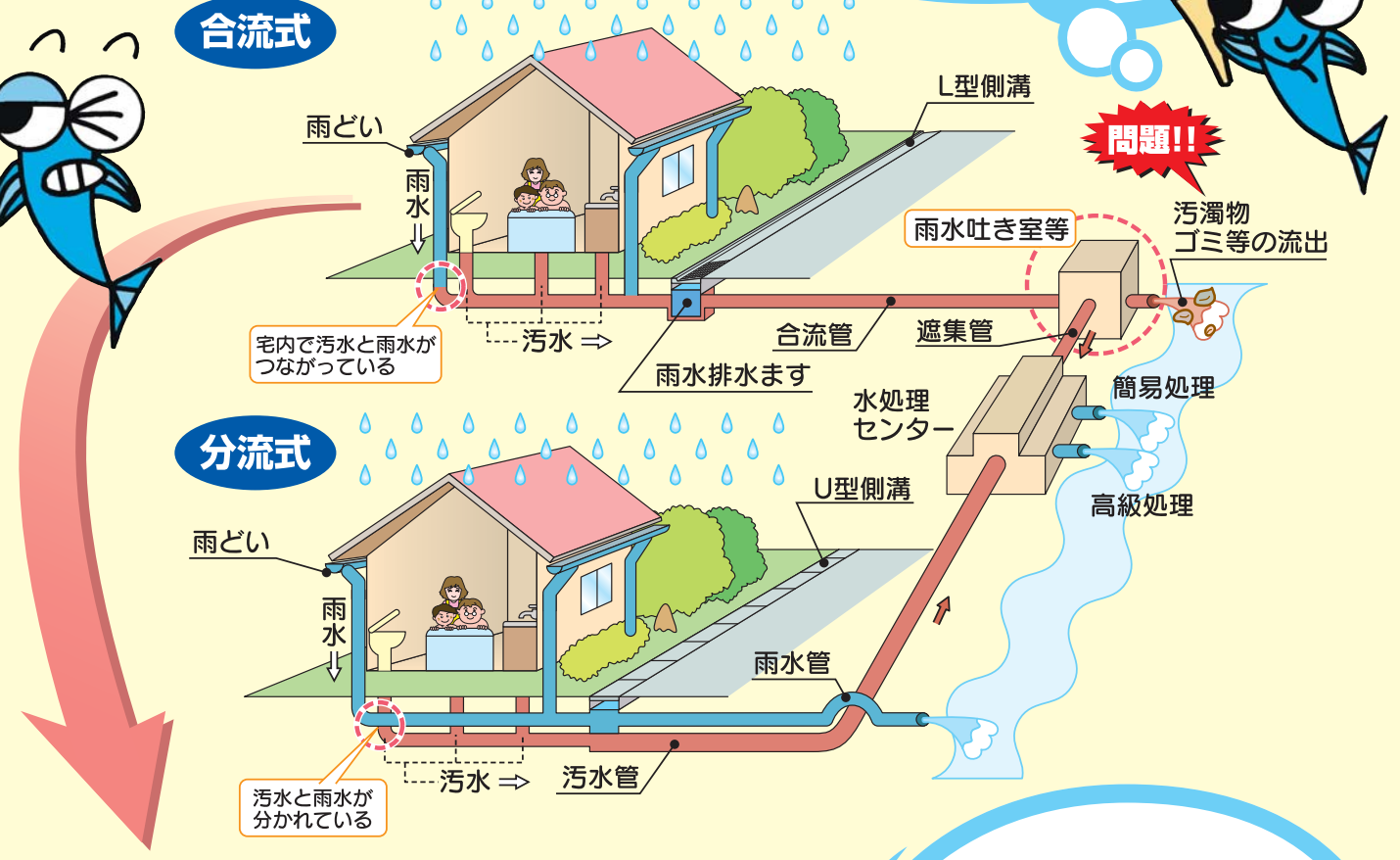
雨水の浸透



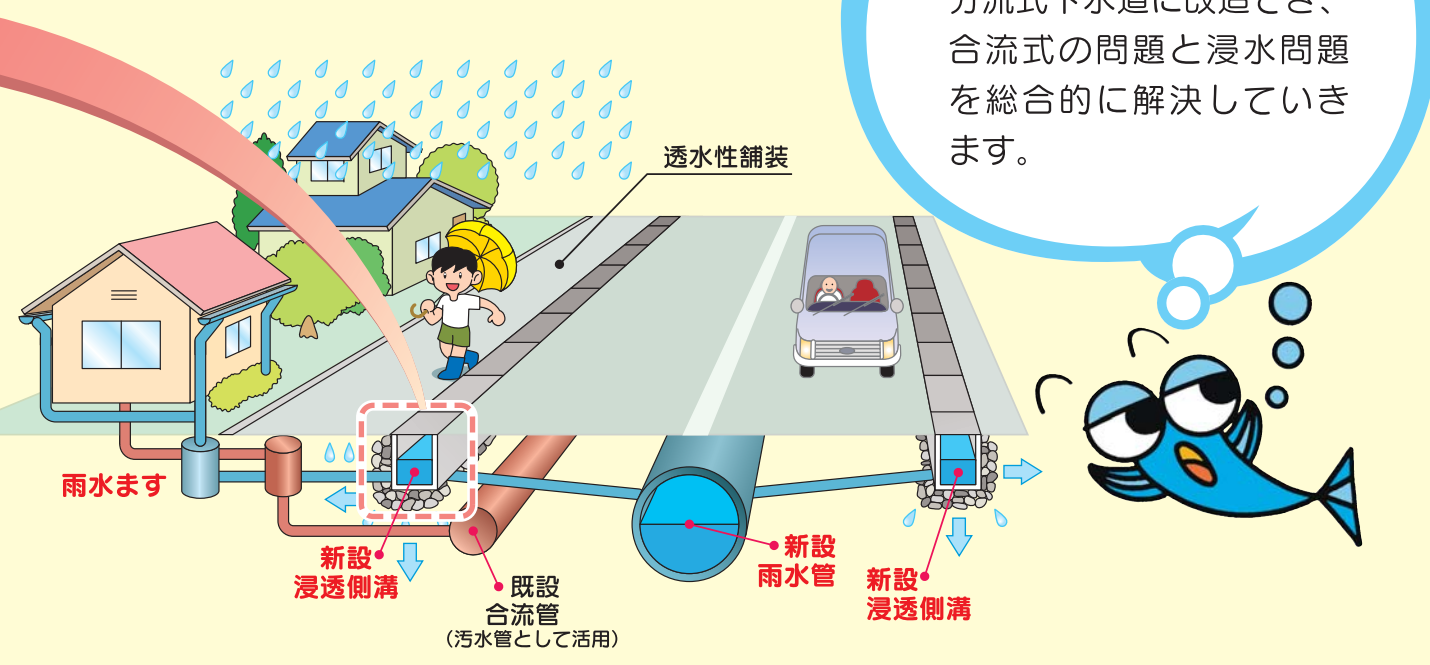
公共施設などに貯留・浸透施設を導入し、雨水の流出抑制を行います。

下水道の分流化

博多駅周辺のように、早くから下水道の整備をしてきた地区では、「汚水」と「雨水」を一本の管で流す合流式下水道となっているため、分流化を進めていきます。



新設雨水管や浸透側溝を整備して、分流式下水道に変えていきます。



合流式下水道では、一定以上の雨が降ると下水の一部を雨水吐き室などから川や海へ放流することがあります。また、道路の雨水排水ますから、道路上に悪臭がでることがあります。

保水機能を持たせたまちづくり



安全で、安心して生活できる
快適な水環境をめざして

市民の生命財産を守るため
平成 25 年度完成を目指し
職員一丸となって事業の推進に取り組んでいます

博多駅地区浸水対策室